

奥田英範

(さんいんキラリ編集長)

×

赤井あずみ

(鳥取県立博物館学芸員)

昭和47年の開館以来、鳥取県立博物館は地域の歴史文化の継承・発展の拠点として、またその普及を通じた社会教育施設として活動を続けてきました。47年を経たいま、施設の老朽化・収蔵スペースの狭隘化、時代の変化によるニーズの多様化など直面するさまざまな課題を解決するために、県立美術館の整備を進めています。この新しい美術館は、博物館の遺産を受け継ぎつつ、より充実した環境で活動を展開させることで、人口減少時代の鳥取県の地域再生拠点として、その未来の姿を描こうとしています。開館準備の期間中、そのヴィジョンを多くの県民の方々と共有し、意見交換を重ねながら、新しい美術館をかたちづくって行きたいと思えます。

そこで、県内各地で活動される方々をゲストにお迎えし、地域における文化活動やそのあり方、そして未来の美術館について考え、語り合うトークイベント「ミュージアム・サロン」を開催します。今回のゲストは、山陰の歴史文化を掘り起こし、その魅力を全国へ伝える情報誌「さんいんキラリ」の創刊者であり、編集長の奥田英範(おくだ・ひでのり)さんです。奥田さんのこれまでのご活動についてお伺いしながら、鳥取の文化状況の未来について、また新しくできる美術館像や活動への提言など、参加者を交えながら意見交換する機会とします。

ぜひお気軽にお集まりください。

アートと 社会と 未来について

2019.08.30 [金] 19:00-21:00

SHIMATORI米子店カフェ イベントスペース
(米子市新開2-3-10 本の学校 内)

参加費 | 無料 ※ワンドリンク制

主催・問合先 | 鳥取県立博物館 美術振興課 美術担当



ゲスト・プロフィール | 奥田英範(おくだ・ひでのり)

1964年米子市生まれ。鳥取県立米子西高等学校卒業後上京し、Chief Integrating Officerであるシー・ユー・チェンの元で新事業の立ち上げに参画、レストラン・商業施設の空間プロデュースやブランディングなど、さまざまな企画・デザインに携わる。1992年エイズ・ポスター国際公募で意見広告賞受賞、1994年米国 "CREATIVE '94" においてロゴ・マーク部門 "優秀賞" などデザイン賞受賞多数。1993年に独立し「有限会社グリーンフィールズ」を設立、松田聖子や氷室京介らトップミュージシャンたちのアート・ディレクション、NIKEジャパンの広告コンセプト業務を手がける。2002年、自らの手でものを作るために帰郷。2年間にわたる取材やマーケティングリサーチを経て、2004年「さんいんキラリ」を創刊。以来15年にわたり、山陰に根ざした歴史・文化を掘り起こし、感度の高い上質な情報発信を全国へ展開している。